



# McAfee Web Protection

クラウド、オンプレミス、ハイブリッド環境に対応したWebセキュリティ

## 主な特長

### 究極の柔軟性

- McAfee Web Gatewayアプリケーション ソフトウェアのすべての機能とMcAfee Web Gateway Cloud Serviceを1つの契約で利用可能
- 現在のニーズだけでなく、将来の変化にも対応
- 配備方法に関係なく、ユーザー数をベースにした購入価格

### 高度なセキュリティ

- McAfee Web Protectionは、特許取得済みに動作分析を行うMcAfee Gateway Anti-Malware Engineを使用してゼロデイ マルウェアをリアルタイムで阻止
- McAfee Endpoint Security、McAfee Advanced Threat Defense、McAfee Cloud Threat Detection、McAfee Threat Intelligence Exchange、McAfee Cloud Data Protection、McAfee Cloud Visibility—Community Editionと統合

McAfee® Web Protectionでは、Webフィルタリングやマルウェア スキャンだけでなく、詳細なコンテンツ検査を行い、クラウド アプリケーションの使用方法をきめ細かく制御できます。また、組織の要件に合わせて柔軟に配備できます。オンプレミス ソリューションの管理を必要としている場合でも、クラウド サービスの究極の柔軟性と低コストを必要としている場合でも、この2つの組み合わせたハイブリッド環境を必要としている場合でも、McAfee Web Protectionを使用することにより、現状だけでなく将来的な変更にも対応できるWebセキュリティを配備できます。

Webの成長と進化に合わせて、Webを攻撃するマルウェアも高度化し、エンドポイントや重要データの脅威は増加しています。リスクが増加している現在、このような変化に対応できる最高のWebセキュリティが求められています。現在のクラウド環境のWebを保護するには包括的なWebセキュリティが必要ですが、McAfeeはこの点をよく理解しています。

### オンプレミス、クラウド、ハイブリッド

McAfeeでは、非常に柔軟な配備を可能にし、将来の投資を保護するため、**McAfee Web Gateway**と**McAfee Web Gateway Cloud Service**のすべての機能を**McAfee Web Protection**という1つのソリューションとして提供しています。オンプレミスには、拡張性に優れたハードウェアで配備します。クラウド環境には仮想アプライアンスとして配備します。この2つを組み合わせることでエンタープライズクラスの柔軟性と可用性を実現することもできます。たとえば、本社の従業員はハードウェアまたは仮想アプライアンスで保護し、リモート環境または移動中の従業員はクラウド サービスで保護できます。支店では、サイトのトラフィック全体をク

ラウド サービスにルーティングすることで、MPLS (Multi-Protocol Label Switching) ネットワークのコストを削減できます。いずれの場合も、McAfeeが提供する業界最高のマルウェア対策と包括的なWebフィルタリングを利用できます。オンプレミスからクラウドまでポリシーの同期を管理することで、すべてのプラットフォームで一貫したルールベースのポリシーを施行できます。

### 高度なセキュリティ

McAfee Web Protectionは、様々な脅威検出技術を多層的に使用した保護対策により、ゼロデイの脅威と既知の脅威を阻止します。McAfee Web Protectionは1つのプラットフォームで複数の技術を提供するので、最適な保護対策で組織のセキュリティを強化できます。また、多くの組織が必要とする多層型のセキュリティ アプローチを実現します。詳細なコンテンツ検査により、ZIPファイルやPDF、グラフィックをスキャンし、潜伏するマルウェアを検出します。独立系調査機関のテストでは、McAfeeのWebセキュリティソリューションは99%以上の精度でマルウェアを検出・ブロックし、最高の結果を残しています。

## 主な特長(続き)

### インバウンドとアウトバウンドの両方向の保護対策

- カスタマイズ可能なルールポリシー エンジンで組織のインターネット利用ポリシーを施行
- マルウェアなどの潜伏する脅威を迅速、効率的に検出する多層型のセキュリティ
- ノートPC、Apple iOSデバイス、Google Androidデバイスなどのリモートユーザーに対するモバイル フィルタリング
- 数千のクラウド アプリケーションに対応

この高度な多層型セキュリティでは次の機能を提供します。

- **包括的なシグネチャ ベースのウイルス対策によるリアルタイム検出:** 最先端のウイルス対策とMcAfee Global Threat Intelligence (McAfee GTI) ファイル レピュテーションにより、リアルタイムの検出を実現します。ウイルス検出からシステム保護までの時間が大幅に短縮されます。
- **McAfee GTIのWebレピュテーションとWeb カテゴリゼーション:** McAfee Web Protectionは、レピュテーションとカテゴリによる強力なフィルタリング機能により、高度なWebフィルタリングと保護を行います。McAfee GTIは、McAfee Web ProtectionのWebフィルタリング技術を強化します。McAfee Labsが世界中から収集したデータの属性に基づき、インターネット上のすべてのエンティティ (Webサイト、メール、IPアドレス) にプロファイルを作成します。さらに、セキュリティリスクに基づいてレピュテーション スコアを割り当てるので、管理者は許可または禁止対象にルールを柔軟に設定し、継続的な監視を行うことができます。コンテンツの動的分類により、以前に確認したWebサイトのコンテンツに不適切なカテゴリ (ギャンブル、ポルノ、ゲームなど) が追加されていないかどうか分析します。

- **動作分析でコンテンツをリアルタイムに検査し、ゼロデイの脅威を阻止:** McAfee Web Protectionは、特許取得済みの技術でゼロデイ マルウェアを阻止します。Webトラフィックが通過するときに、機械学習の情報を利用してリアルタイムで動作エミュレーションを行います。McAfee Web Protectionは、Webページのアクティブ コンテンツをスキャンして、エミュレーションで動作の意図を予測し、ゼロデイ攻撃や標的型攻撃からエンドポイントを保護します。

## クラウドアプリケーションの制御

クラウドアプリケーションの移行により、シャドウITが増えています。未承認のクラウドアプリケーションを追跡できないと、データ漏えいが発生し、金銭的な被害を受けるリスクが高まります。McAfee Web Protectionは、すべてのWebトラフィックの完全な可視性を実現し、数千のWebアプリケーションを制御できます。アプリケーションリスクやユーザー プロファイルなどのビジネス条件を使用してアクセスを管理制限できます。

また、McAfee Web Protectionは、McAfee Cloud Visibility—Community Editionに統合されます。これは、McAfee Data Loss Prevention、McAfeeの暗号化/Web保護製品をご利用のお客様向けの無料サービスで、クラウドアプリケーションの可視化とリスク評価を行います。

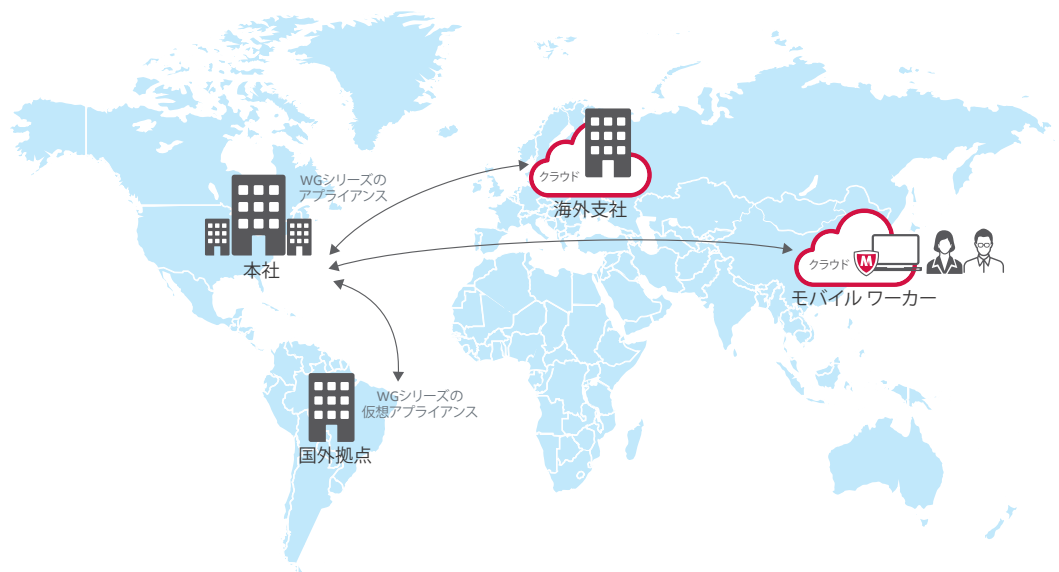


図 1. McAfee Web Protectionは非常に柔軟な配備が可能です。オンプレミス、仮想環境、クラウド、ハイブリッド環境にアプライアンスを配備し、高可用性を実現できます。

### 進化する脅威状況

Webの脅威は巧妙化し、スパム、フィッシングメール、マルバタイジング、ソーシャルメディアなど、複数の方法を利用して攻撃を仕掛けてきます。また、従業員が日頃使用しているファイルが使用される場合もあります。McAfee Web Protectionは様々な経路に対応できます。

- 70%~90%のマルウェアサンプルは特定の組織を狙っています。
- McAfee Labsでは、1分間で300以上の新しいマルウェアを確認しています(1秒あたり5件)<sup>1</sup>

簡単なダッシュボードでクライアントアプリケーションへのアクセス、リスクレベル、データ分類が自動的に表示されるので、セキュリティ担当者はクラウドへのデータ移動を的確に制御し、組織に対するリスクを軽減できます。

McAfee Cloud Data Protectionは、APIレベルでクラウドアプリケーションを統合し、データを制御します。McAfee Cloud Data Protectionは、McAfee Web Protectionの追加サービスとして利用できます。

### 場所に依存しない保護

職場の分散化やモバイル環境への移行が進む現在では、このような環境にもWebフィルタリングとWeb保護をシームレスに展開する必要があります。McAfee Web Protectionでは、McAfee Endpoint Securityにも含まれるMcAfee Client Proxyにより、モバイルユーザーのWebアクセスを保護し、制御できます。このゲートウェア対応の統合ソリューションは、ユーザーの場所に応じて、WebトラフィックをオンプレミスまたはクラウドのMcAfee Web Protectionに自動的にルーティングし、ポリシーを完全に施行します。モバイルデバイス管理パートナーのAirWatch、MobileIronとの統合により、環境内の他のデバイスと同じWebセキュリティポリシーでApple iOSデバイスとGoogle Androidデバイスを保護できます。

### 統合レポート

実績豊富なエンタープライズセキュリティ管理プラットフォームであるMcAfee® ePolicy Orchestrator® (McAfee ePO™)がMcAfee Web Protectionのレポートソリューションになります。McAfee ePOでは、様々な情報を統合して利用できるため、問題を迅速に識別し、コンプライアンス対応を改善することができます。McAfee ePOでは、McAfee Content Security Reporter拡張ファイルにより詳細なWebレポートを作成できます。

McAfee Content Security Reporterの統合レポートインフラを使用すると、オンプレミスとクラウドのMcAfee Web Protectionの配信プラットフォームからデータを収集できます。この情報とツールにより、組織のWeb利用状況を迅速に把握し、コンプライアンス対応や脅威の検出、問題の隔離を行うことができます。また、不適切なWebアクティビティを報告し、フィルタリングの設定を調整してWeb使用ポリシーを施行できます。ダッシュボードとドリルダウン機能により、Webトラフィックをオフラインで分析できます。必要な機能が簡単に利用することができます。McAfee Content Security Reporterは、リソースを集中的に使用する処理を外部の独立したレポートサーバーで実行し、データを保存するため、既存のMcAfee ePOサーバーに負荷をかけることはありません。世界中でビジネスを展開する企業でも、レポート要件に合わせて拡張することができます。

詳細については、[www.mcafee.com/jp/products/web-protection.aspx](http://www.mcafee.com/jp/products/web-protection.aspx)をご覧ください。



マカフィー株式会社

〒150-0043  
東京都渋谷区道玄坂1-12-1  
渋谷マークシティウエスト20F  
TEL 03-5428-1100 (代)  
[www.mcafee.com/jp](http://www.mcafee.com/jp)

1. McAfee Labs

McAfee、McAfeeのロゴ、ePolicy Orchestrator、McAfee ePOは、米国法人McAfee LLCまたは米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2017 McAfee LLC. 3017\_0617  
2017年6月